

Forest通信 令和3年 8

No.390

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山のいきものたち

ヤマドリ (キジ科)



とても尾羽が長い鳥。雄は全長約125cmのうち尾が最大90cmある。雌の全長は約55cmで尾が20cmほど。名前のお通り、山地の森林などに棲み、暗く林床が茂った場所を好む。地域によって羽の色が異なり、関東では、雄は、頭部が赤褐色で、他の部分は褐色の羽に白い縁があって鱗のように見える。雌は頭部の赤みが少なく、尾はくさび型で飛ぶと目立つ。暖地に行くほど赤褐色が濃くなる。

季節移動をしない留鳥で、主に地上で生活し、植物の種子や芽、葉、果実、昆虫、ミミズなど食べる。昔から狩猟対象なので、人への警戒心が強く、出会うことは稀だが、意外に高尾山など身近な山にも棲んでいる。緑豊かな森は、このような大きな鳥を包み込むようにして育てている。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.61 ヒバ (アスナロ) (ヒノキ科 アスナロ属)

5月から始まった朝ドラ「おかえりモネ」で、樹齢300年のヒバが出てきました。ヒバは「アスナロ」が正式な名称の高木の常緑針葉樹で北海道の南部から九州かけて分布し、樹高が30mに達するものもあります。

日本では古くから利用され、ヒノキにも負けない材質をしており、木曾五木とされた銘木です。

名前の由来は、「明日は檜(ヒノキ)になろう」が通説ですが、葉が厚いことから、「アツハヒノキ(厚葉檜)」から転じたという説が有力とされています。

木材としては「ヒバ材」「アテ材」として流通しています。木質は、心材が淡黄色、辺材は黄白色で、心材・辺材の境は不明瞭です。材の木理は通直。均質で仕上がりの良い上品な材面となり、古来から高級材とされています。

ヒバには、ヒノキチオール等の成分による独特の強い香気があり(ヒノキチオールはヒノキには極め

てわずかしが含まれていません。)。ヒノキ科の中でも、特に保存性が高く、水湿に耐え耐蟻性が高いため、建物の土台、根太などに用いられ、その他、器具、風呂桶、漆器素地(アテ:能登地方の輪島塗)や強い殺菌力と水がしみこみにくいことから「まな板」などの用途があります。更に防虫などの効果が高いため、青森では、「総ヒバ造りの家には築後三年は蚊が入らない」など、ヒバの効能を物語る数々の伝説があるそうです。

なお、青森ヒバは、木曾のヒノキ・秋田のスギとともに日本三大美林と言われています。(皿)



葉裏の気孔(白い部分)は独特な模様

夏休み特別企画

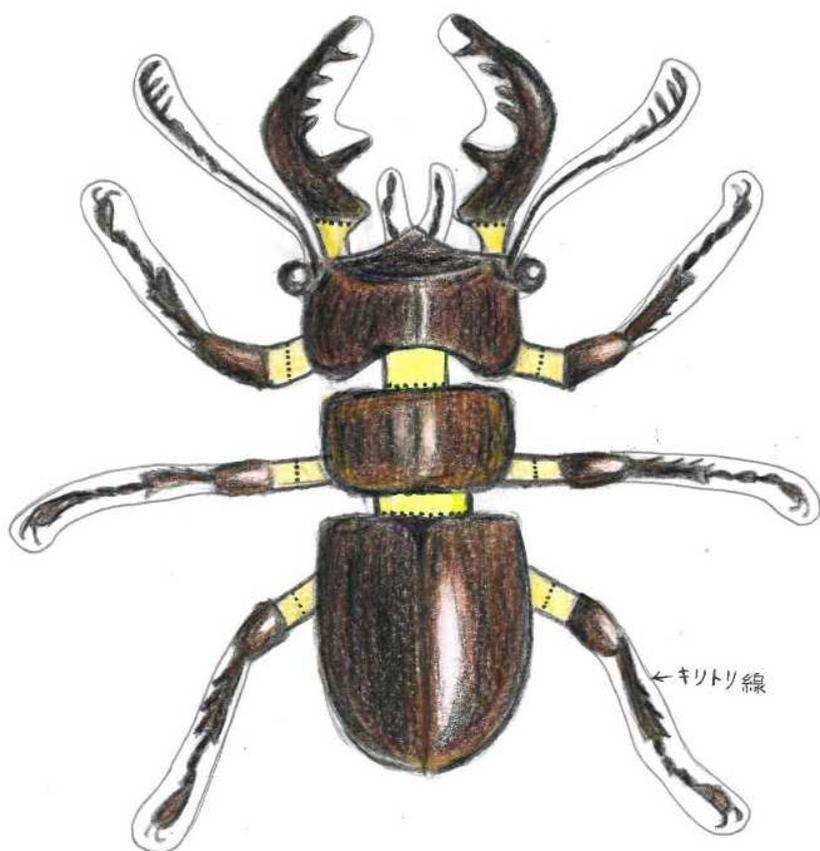
作ってみよう! No.1

高尾森林ふれあい推進センター

ミヤマクワガタ
ペーパークラフト

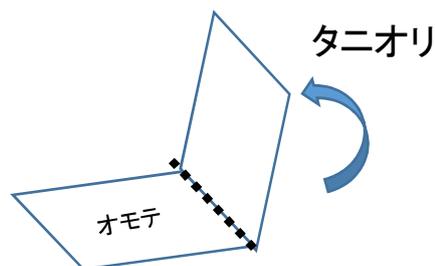
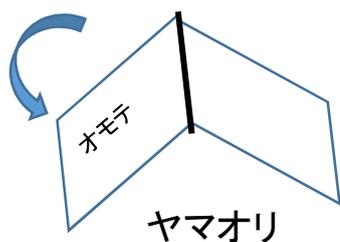


完成写真



【つくりかた】

- ①「キトリ線」にそって切ります
- ②切りだしたら「黄色」の部分体を下へ折り返して立体感を出します
「……」はタニオリ
「——」はヤマオリ
- ③完成写真のように足を曲げたり、真ん中に折り目を入れることでリアルなミヤマクワガタを目指してください。



※お好きな紙に印刷(プリントアウト)してご利用下さい

夏休み特別企画

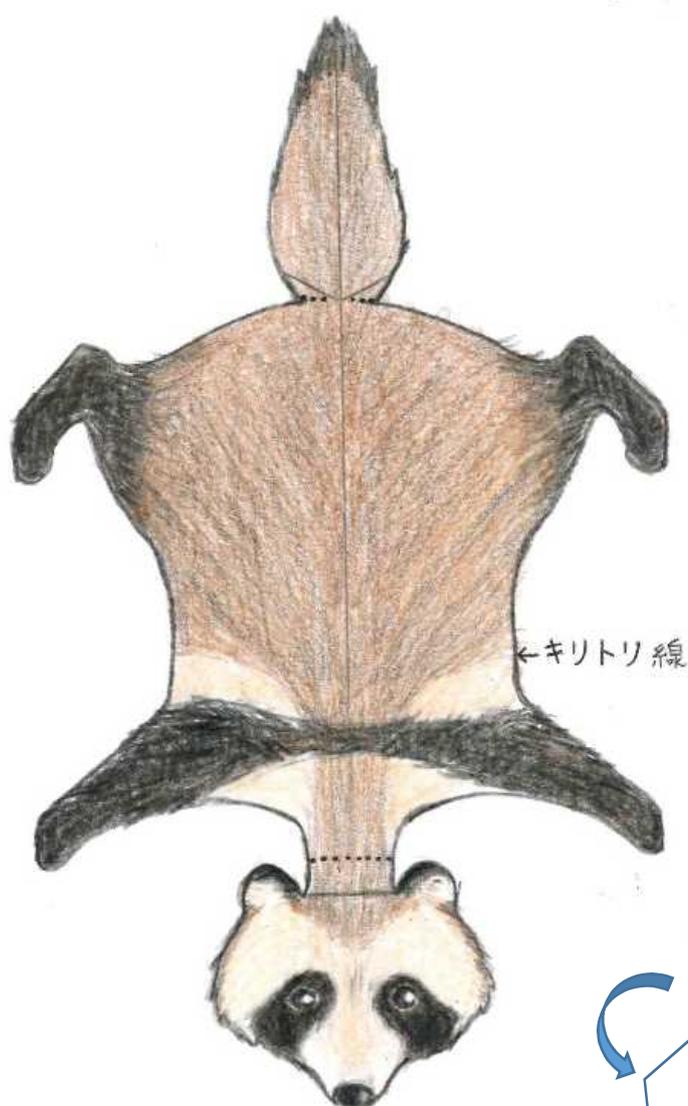
作ってみよう! No.2

高尾森林ふれあい推進センター

タヌキ ペーパークラフト

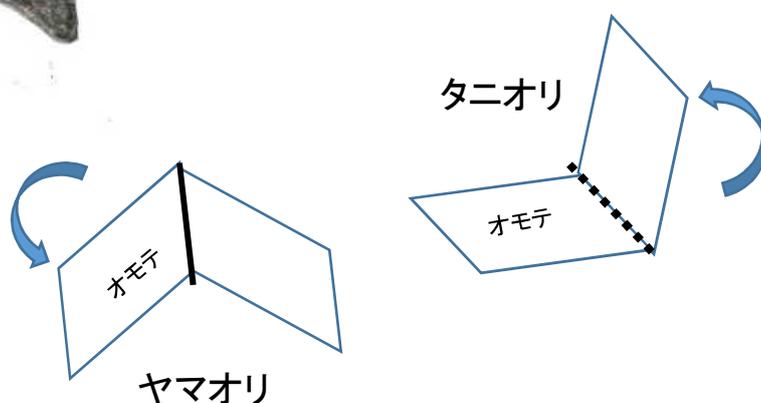


完成写真



【つくりかた】

- ①「キリトリ線」にそって切ります
- ②切りだしたら
「……はタニオリ」
「——はヤマオリ」
線のとおりにおります
- ③背中を丸めてできあがりです。



※お好きな紙に印刷(プリントアウト)してご利用下さい

公募イベント 森林カレッジⅡ

7月3日（土）に東京農業大学教授の宮林茂幸先生を講師に招き、令和3年度のセンター主催イベント「森林カレッジⅡ」を日影沢自然学習体験施設において開催しました。当日は集中豪雨により静岡県で災害が発生するなど天候が心配されましたが、八王子では比較的穏やかな雨が幸いしてか、多くの受講生に参加していただき大変有意義な「森林カレッジⅡ」の開催となりました。

午前中は、宮林先生の講義で、森林の果たす役割や森づくりの重要性、日本林業の現状や問題点、木材の需給動向等について、参加者の皆さんは真剣に聞き入っていました。時にはユーモアを交えながらの先生の絶妙な話術とアットホームな雰囲気からか、講義の終了時には大きな拍手の渦となり悪天候を吹き飛ばす熱気に包まれました。

午後からは草刈り作業の体験です。ほとんどの皆さんが下刈り鎌を使うのは初めてで大変な作業だったはずですが、初めてとは思えない勢いで刈り進んで行きました。そして草刈りも無事終わり、満足そうな表情の中に多少の疲れの色も見えましたが、皆さん無事に帰路へとつきました。

なお、今回は森林カレッジ受講修了生が組織するボランティア団体「FS高尾（フォレスト・サポート高尾）」が全国森林レクリエーション協会より表彰されるという快挙の報告もあり、一段と盛り上がりを見せたイベントとなりました。

参加者の皆さんから頂いたアンケートから感想を抜粋してみると「日本の森林林業について興味深い

話を聞いた。」「所有している山林、農地を孫に受け取ってもらえるよう手入れをしなくてはと思った。」「森林と人の暮らしについての関わりや、日本の森林林業の現実を知ることが出来てとてもためになった。」「森林を次世代に少しでも良い状態で引き継ぎたい。森林整備に微力でも尽くしたい。」「日本の森林を守ることの大切さを改めて認識できた。」「森林を健康・教育・観光面でサービス化して生かし、豊かな森を次世代につなげていきたい。そのために何が出来るかを考えていきたいと思う。」「森をしっかりと守るために管理や手入れが必要なこと、未来へつなげるために考えるべき事、深くて為になる話だった。」等々、今回森林カレッジに参加された皆さんが、かけがえのない物を得られたと感じ取ることが出来ました。（磯）



時にはメモを取りつつ宮林先生の講義を聴く皆さん



大きな鎌での草刈りは「結構きつい！」

編集後記

7月号掲載の「驚き桃の木高尾の記」はNo.6ではなくNo.5でした。お詫びとともに訂正をいたします。

高尾山では、タマアジサイが咲き始めています。



タマアジサイの花

Forest通信 NO.390

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

